韓国結晶学会春季学会に出席して

日本結晶学会会長 田中通義

5月9～11日の3日間、韓国結晶学会に招待されました。はじめ原田仁平元会長と現会長の私の2人が招待されました。ところが原田先生の御厚意により御自身は会社から出張として行けるので現渉外幹事でありAsCAの委員もしておられる虎谷秀穂先生に招待の分を譲って下さいましたので、3人で訪韓いたしました。

原田先生が昨年韓国のIUCrへの加盟に尽力されたとはいえ、私どもとしては原田先生が昨春ご招待を受けましたので、その答礼として昨秋韓国結晶学会会長他2人をご招待し、学会に御参加いただいたつもりでございました。ところが再びご招待を受けることになり、非常に礼に厚いことと恐縮した次第です。

韓国結晶学会は、阪大の仁田先生の高弟であった具教授のお弟子さんであられた安重泰教授によって1989年に結成されたそうです。現在会員は約400名で春と秋に2回学会を開くとのことでした。春はソウルで秋はいろいろなところで開くそうです。学会誌はすでに7巻を数え、年2号発行しているそうです。学会員は物理系、化学系、生物系など、日本と同じように、いろいろな分野の方が参加していると聞きました。実際の活動的なメンバーは約100名程度ようです。

10日午前に、田中「Crystal structure refinement by convergent-beam electron diffraction」、原田「X-ray diffuse scattering study for correlation function of epitaxial crystallites in oxide films on Si wafers」、虎谷「Multiple-detector system for powder diffraction using synchrotron radiation」という演題で、この順序で30分ずつ講演いたしました。質疑もあり、講演後も個人的に質問を受けるなど興味を持っていただき、我々としては良かったのではないかと思います。

会場はソウル市立大学というところでしたが、日本の国立大学のような廃虚とは違って建物も立派で清潔でキャンパスにも余裕があり緑が多く、うらやましい限りで

した。このことは香港や台湾でも感じたことです。

午後は韓国語での発表ということで、気を利かせて下さり、ソウル市内の李王朝の王宮に安先生と明知大学の若手の洪淳光先生が我々を案内して下さいました。安先生はすでに引退されておりますが、日本の大分の生まれで、中学まで日本で教育を受けられたそうです。洪先生は東大で学位を取られました。そういうわけでおふたりとも日本語が堪能で、かゆいところに手が届くように説明をして下さいました。夜は懇親会に招待され、韓国側の指導的な方と歓談することができました。徐会長が歓迎の挨拶をされ、私が日本側のお礼をのべ、これからはもっと若い方々の交流へと発展してゆくように、またAsCAへの両国の寄与が大きくなるようにとのべました。会は原田先生のしめくくりの言葉で散会となりました。

会長の徐教授、庶務幹事の宋教授、洪先生には朝から夜遅くまでおつきあいいただき、そのご苦労とご配慮には頭が下がりました。また9日の夜には、リガクの装置を扱っているITSという会社の10周年記念ということで、そのお祝いの会に我々も招待していただきITSの李社長には大変お世話になりました。常々思うことですがもっと若い人の交流が盛んになって、学会員全てが国際的な視野を身につけていくようになることを望みます。

プロフィール

田中通義 Michiyoshi TANAKA

東北大学 科学計測研究所

〒980-77 仙台市青葉区片平2-1-1

Tel. 022-217-5372 Fax. 022-217-5373

e-mail: tanakam@rism.tohoku.ac.jp

最終学歴：東京工業大学理工学研究科博士課程修了

専門分野：電子線結晶学

現在の研究テーマ：電子回折法による結晶構造解析

趣味：スキー、オーディオ